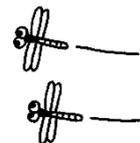


## リレートーク No.3

### コロナ禍の保育 ～今、保育園で～



発信：九州合研常任委員会 2020.9.

「新型の感染症が流行し始めたらしいよ」

まるで人ごとのように話していたあの日から9か月・・・世界中がこんな事態になるとは想像もしなかった。2月末に予定していた発表会も、いつものように開催できると誰もが思っていた。

幸いにも1300名収容可能な大ホールを会場としていたため、マスク着用厳守で保護者同士のソーシャルディスタンスは確保することができた。それでも不安は拭えず、さんざん悩んだ末「長崎でひとりでも感染者が出たら発表会は中止にしよう」と決めた。本番前日、ある保護者から「責任の所在は？」と尋ねられ、全保護者に向けて「できる限りの対策は講じていますが、100%安全とは言えません。保護者の判断のもとでご参加ください」とメールを送信した。結果、当日欠席したのは1名だけ。

2歳児から年長児まで101名が元気に参加し、それぞれの中に育った表現する力をのびのびと発揮することができた。

その後、全国の都道府県に緊急事態宣言が発令され、解除となった今も県をまたいだ外出はおろか「ウィズコロナ」という言葉が流行するほど、新型コロナウイルスは世界中で猛威を振るい続けている。園長会の開催も見送られている中、お互いに情報交換をしながら見えない敵と闘っている。

### 『行事は誰のため？コロナ禍の保育の中で見えてきたこと』

新年度を迎えるにあたり、年間の行事予定を立てたものの「これも無理。あれも無理。」

行事はことごとく削除されていくばかり。

7月に入って職員とともに8月以降の行事について話し合いを重ね、保護者への周知を行った。

大きな行事変更としては

- ★誕生会：保護者の参加は無しとし、クラスごとに行う。
- ★久住登山（年長児のみ）：県をまたいでの移動を避けるため、岩屋山（長崎市）登山後、保育園にてお泊り（本当は芝生広場にテントを立てたかったが断念）
- ★運動会：午前中のみで開催で、2歳児～年長児の参加とし、観覧は各世帯2名までとする。
- ★発表会は中止（3・4・5歳児のみクラスごとに、保育園にてそれに代わる発表の場を設ける）
- ★卒園式：卒園児とその保護者2名までの参加とする

この状況はいつまで続くかわからない。

コロナウィルスと上手に付き合いながら、日々の保育に取り組むことになった。

そんなある日、年長クラスの保護者から「園長先生へ」と書かれた封筒が届いた。

○行事について

(役員の提案)

- ・ 行事の開催決定判断が早すぎる
  - ・ すべてにおいて年長児を優先に考えて欲しい
  - ・ お泊り保育を2回は実施して欲しい
  - ・ 発表会は例年通り行って欲しいが、無理なら保護者抜きで開催してDVD等の販売をして欲しい
- と、行事に関する内容がA4用紙2枚にわたって書かれてあった。

読み終えた後、「自分たちがこれまで正しいと信じてやってきた保育が、行事中心になっていたのではないか?」「保育の中心に主人公であるべき子どもがいたのか?」と自問自答する私がいた。

今回、九州各県の園長先生たちと「コロナ禍の保育」について話し合う中で、「今まで通りの保育の**今まで通り**って何だろう?」「コロナ感染が収束した時、全ての行事を感染拡大前のように戻す必要があるのだろうか?」と強く思うようになってきた。

行事はあくまでも成長の通過点であって、誰かに見せるためのものではない。

保育の原点は子どもと保育士とで作り出す日々の営みの中にある。

その一番大切なことを、いつの間にか忘れてしまっていたのではないかと気づかされた。

どこかに出かけた行事をすることにこだわるのではなく、子どもと保育士との日々の生活の中で一人一人が成長し、その成長を保護者とともに喜び合うことが大切なのではないだろうか。

8月末に開催した年長クラスの保護者会(もちろん、ソーシャルディスタンスをとりながら)で、「どんな時も**子どもが主人公**」であること、「保護者と保育園とが同じ方向を向いて、コロナ禍の中でできることをしっかりやっていく」ということを話し、保護者から「長崎でも徐々に感染が広がっている中、保育園側としても安全面を考慮した苦渋の決断だと思う」「発表の場にこだわらなくても、日々の保育の中で子どもの成長は感じている」「毎日保育園に通い、恵まれた環境の中で遊ぶことができていることに感謝したい」など、温かい言葉をもらうことができた。

手紙をもらった後の保護者会とあって主任と担任はやや緊張気味だったが、保護者とじっくり話すことができ、いい時間だったなあ~と感じている。

こんな大人の苦悩をよそに、今日も笑顔で芝生の上を汗だくになって駆けまわり、10月に開催予定の運動会に向けて意欲満々の子どもたち。

この笑顔に励まされ、これまでと全く違う形をとりながら、たくさんの経験をさせてあげたいと保育者の奮闘は続く。

長崎県 認可保育園 毛谷村裕子(園長)

☆**リレートーク、次は鹿児島県の愛甲さんです** 